



主題名

人権を知ろう

教材名

あるといい ないところまる

人権学習の視点

普遍的な視点「人権の意義」

主題・教材について

中学年とはいえ3年生はまだまだ自己中心性が強く、自他ともに人権が尊重されることでみんなの生活が守られていることに気が付きにくい。

この教材では、みんなが幸福な生活を送るために大切にしたいことを考え、自分だけでなく、友達の権利も尊重しようとする心情を養いたい。

ねらい

「あるといいもの」「ないところまるもの」について考えることを通して、「人権」の大切さを感じ取り、自分や友達を大切にしようとする心情を養う。

本時の展開

| 過程 | 指導内容 | 形態 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 教材・教具 |
|---------------|--|--|--|---|--|
| 導入 | ○本時の学習課題を知らせる。 | 一斉 | ○本時の学習課題を知る。 | | |
| 展開 | 「あるといいもの」と「ないところまるもの」を分けよう | | | | |
| | ○自分の生活を見つめ、「あるといいもの」と「ないところまるもの」とに分けさせる。 | グループ | ○自分の生活を見つめ、「あるといいもの」と「ないところまるもの」を理由を考えながら分ける。 | ○「どちらとも言えない」ものがあったもよい。 ○「教育を受けられること」には、次のような具体的な補足をしてよい。 (紛争などの社会情勢や、経済的理由・虐待などで教育が受けられない場合があること) | 資料 「あるといい ないところまる」カード (指導資料①) |
| | ○発表させる。 | 一斉 | ○分けたものを発表し合う。 | ○「ないところまるもの」→「人権」につなげる方向を含んでおく。 | |
| ○人権の意味を理解させる。 | 一斉 | ○「ないところまるもの」の中には人が人間らしく生きる上で欠かすことができないものがあるということを理解する。 | ○上の発表を例に話す。「飲める水、けがや病気を治療してもらおうこと、等」 ○その他、「もし自分の思いが言えなかったらどうなるだろう」等、具体例をあげて考えさせる。 | | |
| まとめ | 一人一人の人権を大切にするためにどうしたらよいのだろう | | | | |
| | ○学級の中で「ないところまるもの」について考えさせる。 | 一斉 | ○学級の中で「ないところまるもの」について考える。 | ○身の回りの人権(学習や友達、生活など)に対して大切なことを考えさせる。 | |
| まとめ | ○学習のまとめをする。 | 一斉 | ○教師の話聞く。 | ○日常生活の中でも学習したことが生かせるようにしていく。 | |



評価

「あるといいもの」「ないところまるもの」について考えることを通して、「人権」の大切さを感じ取り、自分や友達を大切にしようとする心情を養うことができたか。

